

2023 年度

大分県発達障がい者支援専門員の会

総会

(資料)

1. 開会のことば
2. 会長挨拶
3. 大分県発達障がい者支援センターECOAL 挨拶
4. 議長選出
5. 議事
 - ① 2022 年度活動報告
 - ② 2022 年度会計決算報告
 - ③ 2022 年度会計監査報告
 - ④ 2022 年度報告について質疑応答・承認
 - ⑤ 2023 年度活動方針
 - ⑥ 2023 年度会計予算
 - ⑦ 2023 年度案について質疑・応答・承認
6. 議長降壇
7. 事務連絡
8. その他
9. 閉会のことば

会長あいさつ

新型コロナウイルスの影響で社会的にはリモート対応等新たな形が生まれ、今ではそのスタイルも定着した印象を受けています。しかし、我々SVの本来のスタイルは、やはり当事者やそのご家族等との対面式が望まれると考えます。新型コロナウイルスの影響を強く受けた3年間ではありますが、政府のマスク着用の緩和や新型コロナウイルスの格付けの見直しもあり、今後は我々の活動スタイルも従来の形に戻る事が予想されます。

政府は「異次元の少子化対策」を施策として打ち出そうとしていますが、その原因には少子化があります。現在、日本の社会は少子高齢化の中にあり、年々子ども数は減少傾向にあるのは周知のとおりです。

そうした中、我々が日々関わりをもつ発達障がいのある方々は増加傾向にあります。2022年12月に発表した文部科学省の調査結果では、通常学級に在籍する小中学校の児童の中で8.8%が学習面や行動面で発達障がいの可能性があることが明らかになりました。調査は2002年度から10年ごとに実施され、前回は6.5%（前々回は6.3%）でした。

増加している要因は色々と考えられますが、社会の中で発達障がいのある方々が増え、それに伴い個々の抱える課題や悩みも多種に渡っているのが実状です。会のメンバーも年を追うごとに増え、会の代表としては喜ばしい限りではありますが、多種多様化していく発達障がいに伴う課題解決のためにも、会員の皆様方には会が主催する研修会や圏域連絡会に積極的に参加をしていただき、地域の中で生きづらさを感じている当事者の方々やそのご家族の方々に寄りそう支援を継続的に取り組んでいただきたいと思います。

我々の役割は地域のネットワークの促進であり、SVがそのネットワークのつなぎ目を担うことだと考えます。様々な社会情勢の変化で地域の状況にも変化がありますが、そうした状況変化もきちんと把握する目を持ちながら当事者の方や地域の中でこれまで以上に求められる存在になれるよう皆さんに大きな期待をしています。

2023年4月2日

大分県発達障がい者支援専門員の会
会長 相本 雄一郎

2022年度活動報告

1. 専門員（SV）のスキルアップ

会の主目的であるSV個人個人のスキルの維持・向上については事務局であるECOALと連携し、2022年度も継続した取り組みができました。SV更新についても順調に更新できており、また、更新ともリンクする研修会についても開催し、リモートを取り入れた対面式での研修会を実施することで講師とも直接的な意見交換もでき、好評であったと認識しています。

2. 地域ネットワークの促進

2022年度も新型コロナウイルスの影響があり、対面での会議や関係機関との連携が取りにくい面がありました。そうした中ですが、圏域においては可能な限り地域の中でのネットワーク作りを推し進め、圏域レベルでSVやペアレントメンター、保育コーディネーター、さらには地域の新たな関係性作り（フリースクール関係者等）にも取り組みました。

あわせて、役員会を継続実施し、SV間での情報共有を図り、県内各地域でのネットワーク作りに努めました。

3. 派遣事業への取り組み

2022年度も県事業であるSV派遣事業に積極的に関わりました。事務局であるECOALと連携を取りながら、SVの会の組織力とSV個人個人のスキルを活用し、県の事業の推進に協力できたと考えています。

4. 家族支援への取り組み

2022年度については新型コロナウイルスの影響もあり、家族支援への取り組みは前進できませんでした。しかし、当事者のみならず家族支援への必要性は会としても認識しており、今後はこういった形がSVの会として取り組めるのかも整理し、今後の方向性を見出したいと考えます。

2022年度 決算

＜収入の部＞				
科目	予算額	決算額	増減額	備考
14期登録料	204,000	252,000	48,000	14期21名
更新会費	300,000	348,000	48,000	12期(24名)＋前年度更新対象者(5名)
自閉症協会共催費	20,000	0	△20,000	本年度実施なし
雑収入	0	21	21	利子
前年度繰越金	2,362,128	2,362,128	0	
合計	2,886,128	2,962,149		

＜支出の部＞				
科目	予算額	決算額	増減額	備考
圏域活動費				
東部別府	10,000	10,000	0	お茶代、会場費等
東部国速杵	10,000	10,000	0	お茶代、会場費等
中部大分	20,000	20,000	0	お茶代、会場費等
中部臼津	10,000	10,000	0	お茶代、会場費等
南部	10,000	10,000	0	お茶代、会場費等
豊肥	10,000	10,000	0	お茶代、会場費等
西部	10,000	10,000	0	お茶代、会場費等
北部	10,000	10,000	0	お茶代、会場費等
郵送費	150,000	161,905	△ 11,905	
HP管理費	62,880	62,880	0	
研修会・会場費	200,000	166,804	33,196	Zoom契約料・研修会費等
役員会旅費	0	0	0	
特別活動費	60,000	224,485	△ 164,485	圏域連絡会講師謝礼金 SVの会主催研修会講師謝礼
保険代	43,440	43,440	0	12カ月分
印刷・消耗品等	10,000	153,818	△ 143,818	昨年度100,000を誤って左記と記載。 カードプリンターのカートリッジ等備品の交換
その他・雑費	40,000	5,000	35,000	
特別経費	1,000,000	1,000,000	0	15周年記念式典積み立てとして
合計	1,656,320	1,908,332	△ 252,012	

【次年度繰り繰越額】 収支決算額 2,962,149 － 1,908,332 ＝ 1,053,817

監 査 報 告

監査年月日 2023 年 3 月 15 日

監査場所 イコール

監査報告 2022 年度の大分県発達障がい者支援
専門員の会の活動並びに収支に関す
る経理状況を調査した結果、証憑書
類の整備が適切に処理されていたこ
とをここに報告します。

会計監査人 佐藤 任孝 

穴井由美子 

2023年度活動方針

1. 関係機関との連携

事務局である大分県発達障がい者支援センターECOALや大分県、大分県自閉症協会との連携はこれまで通り継続し、圏域レベルにおいては地域の保育コーディネーターやペアレントメンター、相談支援事業所や教育関係等と連携することで、会としての組織だけではなく地域の中でも連携がスムーズにとれるよう取り組んでいきます。

2. 専門員（SV）のスキルアップ

会の主目的であるSV個々人のスキルの維持・向上については事務局であるECOALと連携し、SVの更新や更新ともリンクする研修会について企画発信していきます。また、これまで以上に会員の方々の意見を取り入れ、会員の方々が望む研修会作りを目指したいと考えます。

3. 派遣事業への取り組み

2023年度も事務局である大分県発達障がい者支援センターECOALと連携し、県事業であるSV派遣事業に積極的に関わり、SVの認知度のさらなる向上とSV個々人のスキルアップにつなげていきたいと考えます。

4. 地域課題の調査

県内ではそれぞれの地域性もあり、福祉サービスや教育、就労状況等、地域差を感じる面があります。SVの会のネットワークを活用し、来年度から地域の状況把握に取り組んでいきたいと考えます。

2023 年度予算

< 収入 >

科目	予算額	備考
15 期登録料	360,000	12,000 円×30 名
更新会費	192,000	12,000 円×16 名
自閉症協会共催費	20,000	自閉症協会より交流研修会費
前年度繰越金	1,053,817	
合計	1,625,817	

< 支出 >

科目	予算額	備考
圏域活動費		
東部別府	20,000	
東部国速杵	20,000	
中部大分	20,000	
中部臼津	40,000	
南部	20,000	
豊肥	20,000	
西部	20,000	
北部	20,000	
郵送費	150,000	
HP 管理費	62,880	
研修会費	150,000	継続研修・交流研修、zoom 契約料等
特別活動費	200,000	圏域連絡会講師謝礼金
印刷・消耗品等	100,000	
保険代	43,440	3,620 円×12 カ月
その他・雑費	739497	学習教材等
合計	1,625,817	